

八潮市学校適正配置指針・計画に基づく北部地区の個別計画策定について

1 経緯

本市では、令和2年3月に策定した「八潮市学校適正配置指針・計画」において、八條北小学校では小規模特認校制度など、小規模校のメリットを最大限活かすことについて検討し、魅力ある学校づくりのための制度を創設し児童数の増加を促進するとしている。

また、令和2年度には、当該計画に基づく北部地区の個別計画を策定しており、その計画において八條北小学校では小規模校対策として「小規模特認校制度」を導入している。

しかし、当該計画では、前途の手法で一定の成果が出ないと教育委員会で判断した場合、又は複式学級（2つ以上の学年で編成する学級）が生じる場合については、統合の対応について検討を開始する。その際は、地域の意見を聴くとともに、統合の方法や登校の手段や方法についても検討している。

2 現状と目的

現在、進めております「八潮市学校適正配置指針・計画」の見直しにおける児童生徒数の推計においては、今後、八條北小学校の児童数が減少する見込みとなっており、近年に複式学級を編成する可能性がある状況となっております。また、同校では「小規模特認校制度」を導入し、特色ある英語教育などを進めておりますが、児童数は増加していないことから小規模校の解消が難しい状況となっております。

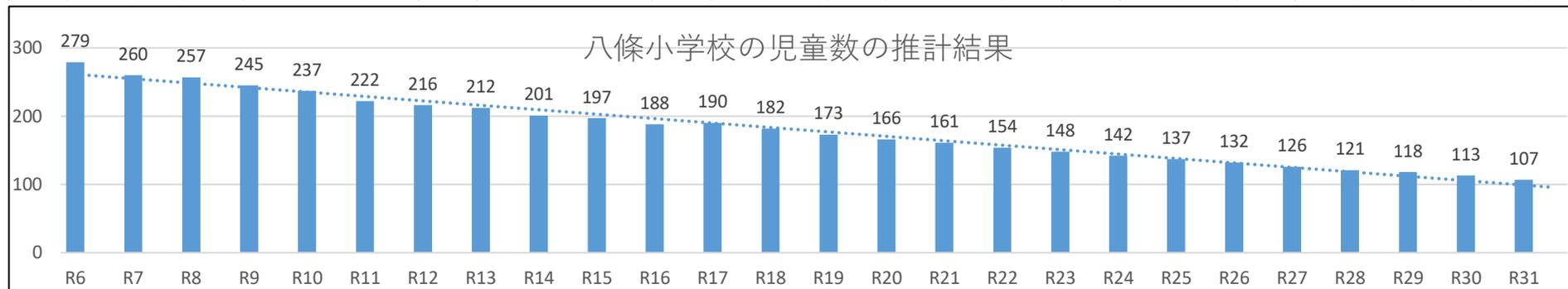
さらに、本市の北部地区においては、今後、（仮称）外環八潮パーキングエリアやスマートインターチェンジ等道路施設の整備、産業施設の立地誘導や（仮称）道の駅やしお等により交通環境が大きく変化することが想定され、それに伴い八條北小学校や八條中学校の教育環境にも大きく影響するものと考えております。

このようなことから、教育委員会では、八條北小学校の複式学級、小規模校の解消や安全・安心して通学できる方法などの検討を含め、当該計画の見直しの中で北部地区（八條中ブロック（八條小・八條北小・八條中））の教育環境等について個別計画を策定する予定です。

3 児童・生徒数の推計結果

(1) 八條小学校の児童数の推計結果

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31
1年	45	41	46	35	39	29	36	35	33	32	31	30	28	27	26	25	24	23	22	21	21	20	19	19	18	17
2年	40	42	40	44	34	38	28	36	34	32	31	30	29	27	26	26	25	24	23	22	21	20	19	19	18	17
3年	44	43	42	40	44	34	38	28	36	34	32	31	30	29	27	26	26	25	24	23	22	21	20	19	19	18
4年	39	46	42	41	39	43	34	38	28	35	33	32	31	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	20	19	18
5年	45	42	45	41	40	38	42	33	37	27	34	33	31	30	29	28	26	25	24	24	23	22	21	20	19	18
6年	66	46	42	44	41	40	38	42	33	37	27	34	33	31	30	29	27	26	25	24	23	22	22	21	20	19
合計	279	260	257	245	237	222	216	212	201	197	188	190	182	173	166	161	154	148	142	137	132	126	121	118	113	107

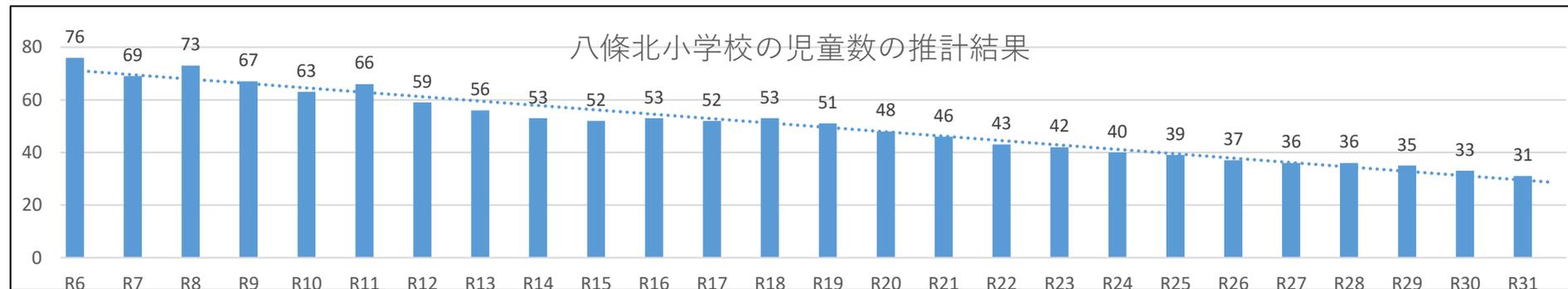


八條小学校は、児童数が減少傾向で推移し、令和16年度以降は、すべての学年で1学年、1学級の「小規模校」となる見込みである。

(2) 八條北小学校の児童数の推計結果

(単位：人)

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31
1年	13	13	15	10	9	10	6	10	10	9	9	8	8	8	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	5	5
2年	7	14	13	14	9	8	10	6	10	10	9	9	8	8	8	7	7	7	6	6	6	6	6	5	5	5
3年	13	5	14	13	14	9	8	10	6	10	10	9	9	8	8	8	7	7	7	6	6	6	6	6	5	5
4年	15	11	5	14	13	14	9	8	10	6	10	10	9	9	8	8	7	7	7	7	6	6	6	6	6	5
5年	12	15	11	5	13	12	14	9	8	9	6	10	9	9	8	8	7	7	7	7	6	6	6	6	6	5
6年	16	11	15	11	5	13	12	13	9	8	9	6	10	9	9	8	8	7	7	7	7	6	6	6	6	6
合計	76	69	73	67	63	66	59	56	53	52	53	52	53	51	48	46	43	42	40	39	37	36	36	35	33	31



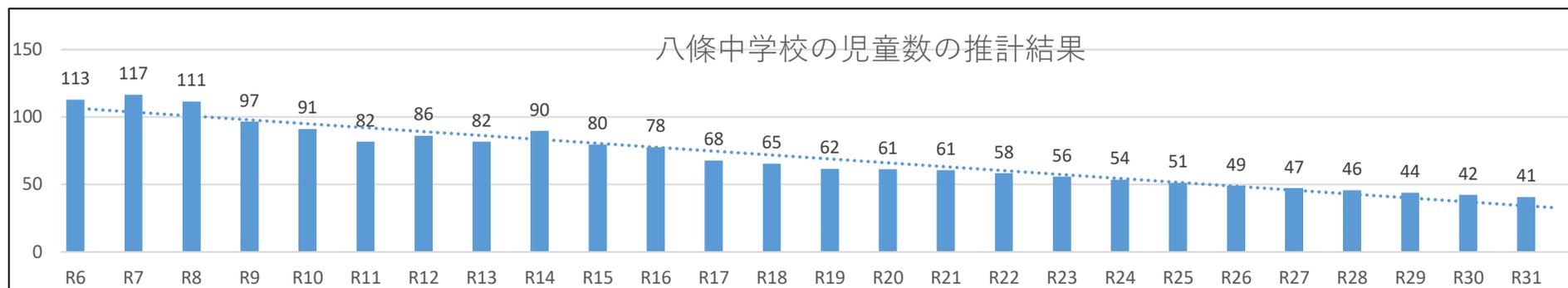
八條北小学校は、年々児童数が減少し、令和7年度から複式学級の編成の可能性がある。また、令和21年度以降、2～6年生は複式学級となる可能性がある。

 複式学級の編成の可能性のあるもの

(3) 八條中学校の児童数の推計結果

(単位：人)

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31
1年	39	38	32	28	32	23	33	27	31	22	25	21	20	21	20	20	19	18	17	17	16	15	15	14	14	13
2年	40	43	38	32	28	32	22	32	27	31	22	25	21	20	21	20	19	19	18	17	16	16	15	15	14	14
3年	34	36	42	37	31	27	31	22	32	27	30	22	25	20	20	21	20	19	18	18	17	16	16	15	14	14
合計	113	117	111	97	91	82	86	82	90	80	78	68	65	62	61	61	58	56	54	51	49	47	46	44	42	41



八條中は、年々生徒数が減少し、令和31年は合計で41人となるものの複式学級まではならないが、授業や部活に影響を及ぼす可能性があるほか、教職員の配置に制約が生じる。

4 課題

八潮市学校適正配置指針・計画の見直しにおける児童数推計の結果から推測される課題や今後の北部開発に伴う課題は以下のとおりである。

(1) 八條北小学校及び八條中学校における共通課題

- ① 小規模特認校として特色ある教育を進めていたが、令和6年度まで児童生徒数は増加していないため小規模校の解消は難しい状況である。
- ② 八潮市学校適正配置指針・計画の見直しにおける児童数推計において、児童数は減少する見込みである。
- ③ 北部の開発に伴い教育環境も大きく変化する。

(2) 八條北小学校における課題

- ① 当該児童数推計では、近年に複式学級になる可能性がある。

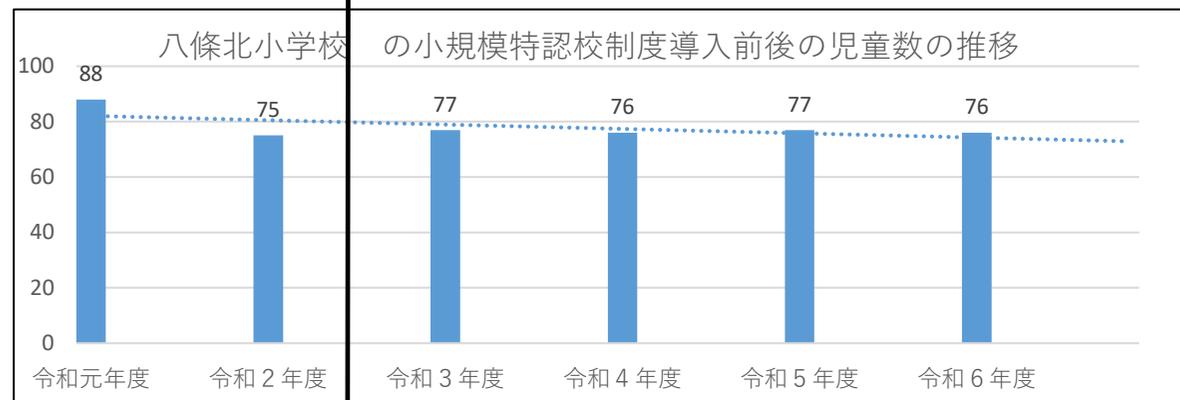
(3) 八條小学校における課題

- ① 当該児童数推計では、将来、小規模校となる可能性がある。

5 現在の取り組み

八條北小学校では、令和3年度から小規模特認校制度を導入し、特色ある英語教育を進め小規模校の解消を目指しているが、以下のとおり児童生徒数の新規入学者は増加していない状況である。

		← 導入前		→ 導入後			(単位：人)
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
八條北小学校	特認校制度で入学した児童数			3	2	5	2
	全児童数	88	75	77	76	77	76



6 小規模校・複式学級

令和2年3月に策定した「八潮市学校適正配置指針・計画」において小規模校は小学校が11学級以下で、方策は「要検討」としており、複式学級の方策は「対応」となっている。

複式学級は、2つ以上の学年を合わせても16人以下（1年生を含む場合は、8人以下）となる場合に編成した学級で、異なる学年の児童が1つの教室で1人の先生から同時に授業を受けるため、一方の学年が授業を受けている間、もう一方の学年は自習課題等を行うこととなることから児童の学力低下が懸念される。

(1) 小規模校・複式学級のメリット・デメリット

	学習面	生活面	学校運営面
メリ ット	児童一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	児童相互の人間関係が深まりやすい。	全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。
	学校行事では、一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	異学年の縦の交流が生まれやすい。	学校が一体となって活動しやすい。
デ メ リ ット	集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。	クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。	教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いきにくい。
	児童数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりにくい。	集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。	学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いきにくい。
	運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。	切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。	一人に複数の校務分掌が集中しやすい。
	1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。	組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。	教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。
	自習学習の時間が増加することにより、学力の低下が懸念される。【複式】	高学年の複式学級では、下の学年が少し窮屈感を感じる一方で、年上の学年への甘えも生じやすい。【複式】	子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。

7 対応方針（案）

八條北小学校は、近年に複式学級になる恐れがあるため、今年度中に対策を検討する。

また、八條中学校については、複式学級の恐れはないものの小規模校として教育を行うこととなり、授業や部活にも影響があるほか、八潮中学校や八幡中学校への指定校変更も多いことから、八條北小学校の対応を踏まえたうえで検討を進める。

8 八潮市の小中一貫教育について

(1) 現在の小中一貫教育

① これまでの経緯と特徴

- 平成18年度に「施設分離型」の小中一貫教育を開始した。今年度で19年目を迎える。
- 同じ中学校区の小学校2校と中学校1校が「研究ブロック」を形成し、小中一貫教育の研究を推進している。各ブロックで特色ある取組を実践している。
- 小中一貫教育推進検討部会（けいかく部会・まなび(学力)部会・まなび(体力)部会・こころ部会・しえん部会・ICT部会）が中心となり、様々な取組を進めている。「ボトムアップ型」であることが本市の小中一貫教育の特徴である。
- 県外からも注目を集め、秋田県小坂町や神奈川県綾瀬市とは数年間にわたり、派遣研修教員受け入れなどの交流を続けている。

② 小中一貫教育の成果

- 市内すべての小中学校において、義務教育9年間のつながりを意識した教育活動が推進されている。
- 小中一貫教育導入当初の課題であった「学力」「非行問題行動」「不登校」については、だいぶ改善されてきている。
- 学力については、令和6年度の学力調査結果において、これまでにない好成績となっている。
- 学力向上の要となる「授業改善」については、「八潮スタンダード(目指すべき授業展開のモデル)」のもと、着実に成果を上げている。
- 非行問題行動については、以前と比較して激減している。
- 不登校については、コロナ前までは着実に減少していたが、コロナ禍以降増加しはじめ、大きな課題となっている。
- 児童生徒や教職員による交流活動の充実により、小中学校間の円滑な接続が図られ、いわゆる「中1ギャップ」が軽減されている。
- 授業における児童生徒の交流や、小中学校間での教職員の乗り入れ授業など、さらなる教育活動の充実が図られてきている。

(2) 今後の小中一貫教育

- 施設分離型による小中一貫教育のもと、これまでの取組を一層深化させるとともに、次の10年を新たなステージとしてとらえ、八潮を愛し、予測困難な時代をたくましく生き抜く子供たちを育成していく。
- 大学連携や企業連携、地域連携の推進により、学校の教育活動の質を高めるとともに、学習の成果を積極的に学校外に発信し、社会に出て活躍できる人材を育成していく。
- ふるさと科（総合的な学習の時間）の全体計画や年間指導計画の見直しを行い、探究的な学びの一層の充実を図るとともに、ふるさと「八潮」のよさを発見し、発信していく。
- 1人1台端末の効果的な活用を推進するとともに、義務教育9年間を通してICTスキルの育成や、情報モラル教育、情報リテラシー教育の充実を図っていく。
- 今後の児童生徒数の推移や、町会・自治会など地元住民の意見を踏まえ、施設一体型の小中一貫校の整備についても検討していく。
- 小中学校間の円滑な接続を目指し、望ましい学年の区切り（6-3制や4-3-2制など）の在り方についても検討していく。
また、小学校からの教科担任制の導入や、教員の相互乗り入れについても積極的に進めていく。